

法人(事業所)理念	障がい児が、日常生活における基本動作を習得し、及び集団生活に適応することが出来るよう、当該障がい児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切且つ効果的な指導及び支援を行う。		
支援方針	<p>1. 本人支援 子どもたちの全人的な発達促進を目的として随意運動プログラムを基本として支援を実践する。随意運動プログラムにより、外部からの刺激(五感覚情報)を中枢神経に取り入れ、それを調整して表現できるように支援することで、「生きる力」、「喜びや労する力」を育てる。 また、情報面の安定、知的発達(思考、理解、判断、決断、企画)を促進することを土台として、「友達を作る力」「社会の中で生活が出来る力」「社会の中で自分を出せる力」「考える力」「将来を思い浮かべる力」「聞く力」「待つ力」「健康に過ごす力」「自分の事は自分でする力」の育成に努める。</p> <p>2. 家族支援 家族のウェルビーイングを目的とし、保護者の不安や悩み・葛藤について理解することを通して保護者が安心して子育ての喜びや充実感を感じることが出来るよう支援する。 子どもとの信頼関係、かかわりの工夫や信頼関係・愛着関係の形成に向けた支援を行い、親子関係及びきょうだい関係を構築する。</p> <p>3. 移行支援 子どもたちの成長・発達を支援しながら、ライフステージの変化に伴う保護者の不安の軽減をはかるとともに、学校、就労先との連携をすすめるスムーズに移行できるように支援する。 子どもたちの将来を見据え、「保護者や子どもの意向」を把握するとともに「子どもたちの特性や能力」「地域の社会資源」の状況を鑑み「子どもの最善の利益」の保護を念頭に丁寧に移行を支援する。</p> <p>4. 地域支援・連携 地域全体で子どもを育てていくために各機関(保育施設・教育機関、公的機関等専門職、地域住民)の情報を取り入れ、調整し連携する。</p>		
営業時間	10時0分	19時0分	送迎実施の有無 あり
	小学生	中学生	高校生
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 健康な心と体を育て、健康で安全な生活を行えることを支援する。 睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、身の回りを清潔にするなどの基本的な生活習慣を形成することが出来るよう支援する。また、健康状態を維持し、生きる力を育て、改善に必要な生活リズムが身につけられるよう支援する。 食育の育成、楽しく食事ができる。咀嚼嚥下、姿勢保持、手指の運動機能、目と手の協応、さらに衣服の調整、室温の調整、換気、病気の予防や安全への配慮、支援を行う。 自己の行動や感情を調整し、他者に対して主体的に関わることができるための支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝早起きなど自分で時間を決めて規則正しい生活が出来よう支援する。 思春期になり、自己肯定感や自己存在感を高め集団の中で居場所を感じ、ともに生活する仲間や支援員との間に自己表現が出来るような平和的で、安定的な人間関係を築けるよう支援する。 遊びを通して、人生設計、将来の事を考えられるよう支援する。 性教育を通して、命の大切さと一緒に相手を大切にすることを教える。 買い物や調理活動など生活体験が出来るよう支援する。 一日の流れなど自分で生活の時間を考え決めて生活が出来よう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠時間や食事など自分の健康を自分で考え整えられるよう支援する。 精神的な安全、健康、安定をつくりだすよう支援する。 困難な状況に適応し、対応できる力が育つよう支援する。 社会に出ること、一人で生活する力が身につくよう支援する。 社会的文化に触れる機会が出来るよう工夫する。 事業所での生活を自分たちで組み立て自立し、自給的な生活をおくれるよう支援する。 進級する期待感や卒業に向けての気持ちが膨らむよう支援する。
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持、上肢、下肢の運動、動作の改善及び習得、筋力の維持、強化を図るよう支援する。 五感(視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚)及び固有受容覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるように、遊びなどを通して支援する。情報を収集し、状況を把握して行動が出来るよう支援する。 日常生活に必要な移動能力や、事業所外での移動や交通機関の利用など、社会的な場面における移動能力の向上のための支援を行う。 感覚の偏りに対する適切な支援をすることによって子どもの意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所外での活動に参加し、色々な体験、経験が出来るよう支援する。 随意運動プログラムをゲーム化することにより、思考力、理解力、判断力を育て、子どもの意欲を引き出す。 思考力、理解力、判断力を育み、子どもの意欲を引き出す。 達成感や充実感を味わい、支えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 随意運動プログラムをゲーム化することにより、思考力、理解力、判断力を育て、子どもの意欲を引き出す。 バス、電車など公共交通機関を利用する体験が出来るよう支援する。 店での行動、施設での行動など公共の場での行動が身につくよう支援する。 達成感や充実感を味わえるよう支援する。 日常生活に必要な動作を確立し、自分の得意とするものを見つけれられるよう支援する。
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持、上肢、下肢の運動、動作の改善及び習得、筋力の維持、強化を図るよう支援する。 五感(視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚)及び固有受容覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるように、遊びなどを通して支援する。情報を収集し、状況を把握して行動が出来るよう支援する。 日常生活に必要な移動能力や、事業所外での移動や交通機関の利用など、社会的な場面における移動能力の向上のための支援を行う。 感覚の偏りに対する適切な支援をすることによって子どもの意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 随意運動(粗大・巧緻運動)を複雑化し、さらに仰臥位、体支などで強化していく。 個々の運動発達の遅れを把握し、その子に合った粗大運動をもとに遊び(固定遊具、マット、巧技台、三輪車、フープ、なわ、ボールなど)を楽しむよう支援する。 安心できる環境の中で思いっきり体を動かすことが出来るよう支援する。(ドッボール、サッカー、野球、バスケット、卓球、鬼ごっこ、陣取り、縄跳び等) 異年齢児と関わりながら年上の子へ憧れを持ち、活動が出来るよう支援する。 伝承遊び(こま、お手玉、けん玉など) 	<ul style="list-style-type: none"> 随意運動プログラムをゲーム化することにより、思考力、理解力、判断力を育て、子どもの意欲を引き出す。 バス、電車など公共交通機関を利用する体験が出来るよう支援する。 店での行動、施設での行動など公共の場での行動が身につくよう支援する。 達成感や充実感を味わえるよう支援する。 日常生活に必要な動作を確立し、自分の得意とするものを見つけれられるよう支援する。
本人支援	<ul style="list-style-type: none"> 自分に入ってくる情報を適切に取得し、処理できるように支援する。また、こだわりや偏食などに対する支援を行う。 過去に取得した情報と現在取得した情報を照らし、環境や状況把握、理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることが出来るよう支援する。 物の機能や属性、形、色、音が変化するように、大小、数、重さ、空間、時間などの概念の形成を図るとともに、それを認知や行動の土台として活用できるように支援する。 適切な行動への対応の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢での遊びを通して、より高度な技の獲得や新しい遊びへ挑む気持ちや、やる気を持てるよう支援する。 遊びの選択権をもち、遊びのおもしろさを楽しむの道が出来るよう支援する。 事業所内のルールを中学生から小学生に伝え、守るよう教える。自分も守れるよう支援する。 社会のルールを知り、守れるよう支援する。 他者の気持ちを理解し、折り合いをつけることを覚えられるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会のルールを知り、守れるよう支援する。 社会に適応できるように支援する。 他者の気持ちを理解し、折り合いをつけることを覚えられるよう支援する。 その場に応じて臨機応変に行動できる規範意識をもてるように支援する。
言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、指差し、サインなどを用いて意思のやり取りが行えるようにする。 話ことばや文字、記号、身振り、サイン、指差しなどを用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど言語を受容し表出することが出来るよう支援を行う。 身体的な事柄や体験と言葉の意図を結び付けられるように、自発的な発話を身に付けることが出来るよう支援する。 人と人の相互作用を通して、相手と同じものに注意を向け、その行動や意図を理解、推測するといった共同注意の獲得などを促したコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 伝えようとする相手と受け取る側の人間関係や、そのときの状況を的確に把握する力、場や相手の状況に応じて、対応できる力が育つよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の表情や態度から気持ちを読み取ることが出来るよう支援する。 相手の気持ちに気づき、言葉を選んで話すことが出来るよう支援する。 困った時に助けが求められるよう支援する。 遊びの例 ・連想ゲーム、人生ゲーム、手紙を書くなど 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちに気づき、言葉を選んで話すことが出来るよう支援する。 一人一人の子どもが、仲間から認められるよう支援する。 相手の表情や態度から気持ちを読み取ることが出来るよう支援する。 自分の行動、言動に責任をもって発言、行動できるように支援する。 困難な状況に陥った時に助けを求められるよう支援する。
人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中でよい人間関係が出来るように支援員が関わり、代替するなどして支援する。 自分の考えを表現できる力をつけるよう支援する。 遊びの中のトラブルを自分たちで解決できるように支援する。 友達と共に過ごす中で、教えたり、教えられるりしながら、他者に対する思いやりの心や信頼関係が育つよう支援する。 随意運動プログラムを通して支援員とのコミュニケーションを図り、状況を的確に把握する力を養う。 遊びの例 ・家族ごっこで言葉のやりとりを楽しむ ・かるた、しりとり、なぞぞ、クイズ、歌、文字カードなど 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの感情が崩れたり、不安になった際に、支援員が相談にのることで、安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるように支援する。 遊びを通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 運動機能及び感覚機能を使った遊びから、見立て遊び、つもり遊び、ごっこ遊びなどの象徵遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 一人遊びから並行遊び、大人が介入して行う連合的遊び、後部分担遊びをする中で、ルールを守って遊ぶ共同遊びへと徐々に発展させ、「理解力」「判断力」「決断力」などを育み、社会性の発達を支援する。 自分の出来る事や苦手な事など行動の調整が出来るよう支援する。 集団に参加するための手順やルールを理解し、子どもたちの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるように支援するとともに、共に活動することを通して、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りの事も考えて行動できるよう支援する。 一人一人の子どもが、仲間から認められるよう支援する。 困ったことがある時、悩んでいる時など身近な大人に相談出来るよう支援する。また相談が出来る友達、仲間を作れるよう支援する。 公共のマナーが身につく、確立できるよう支援する。
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが家族や周囲の人と安定した関係を形成するための支援。 家庭の子育てに関する困りごとに対する相談援助。 子どもの発達上の関わり方、助言、提案。 安心して預けられるよう家庭訪問や就労先を通して事業所での様子を伝える。 家族のライフタイムの時間の確保や就労先などの預かりニーズに対する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが通う予定の学校への移行や将来の移行を見据えた支援方針、支援内容の共有や子どもの状態、親の意向、支援方法について伝達、情報共有する。 受け入れ態勢づくりへの協力、進路など本人や家族への相談。 放課後等デイサービス支援計画の作成または見直しに関する会議を開催する。 進路、進学、就労に向けて、子どもの不安を受けとめるための安定を促し、期待とあこがれの気持ちを大切にできるように支援する。 	
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが通う予定の学校との情報連携や調整、支援方法や環境調整に関する相談援助。 子どもを担当する保健師や子どもが通う医療機関等との情報連携や調整。 虐待が疑われる場合は、児童相談所や子ども家庭センターとの情報連携。 民生児童委員、主任児童委員等地域の関係者との連携、会議の開催。 地域行事に参加することで、公民マナーが身につけられるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どものウェルビーイングを目指した理療の共有を図る。 必要な知識、技術を習得し、それらのスキルを維持・向上できるように努力する。 遊び自体の中に子どもたちの成長・発達を促す重要な要素が含まれる随意運動プログラムを実践する。挑戦や失敗を含め内外を問わずに自由な遊びを行い、体験したことや興味を持ったことに取り組みの機会を工夫する。 日常生活における基本的な動作や自立を支援するための活動を工夫する。子どもが意欲的に関われるような遊び、成功体験の積み増し、自己肯定感を育めるよう支援する。社会性を育て、将来の自立や地域活動を見据えた活動を工夫する。 	
主な行事等	もちつき・豆まき・クリスマス・夏祭り		